

2003年

沖電気高崎地区環境レポート



2003年7月10日

**沖電気工業株式会社
金融ソリューションカンパニー
高崎地区**

「沖電気高崎地区環境レポート」

この環境レポートは、2002年度（2002年4月1日～2003年3月31日）の沖電気高崎地区の環境保護に関する活動実績をもとに作成しました。

目 次

- 1．ごあいさつ
- 2．高崎地区の事業概要
- 3．高崎地区のこれまでの取り組み
- 4．高崎地区の環境方針
- 5．高崎地区環境活動の推進体制
- 6．環境目標の達成状況
- 7．高崎地区の環境活動と成果
 - 7.1 省エネルギー活動
 - 7.2 省資源活動
 - 7.3 廃棄物の再資源化活動
 - 7.4 環境配慮型製品の開発
- 8．緊急時の訓練
- 9．環境法規制
- 10．環境会計
- 11．社会貢献活動
- 12．社外表彰



1. ごあいさつ

沖電気工業株式会社
金融ソリューションカンパニー
バイスプレジデント
松前 晃庸

沖電気高崎地区環境レポートを発行するにあたり、当地区を代表いたしましてごあいさつ申し上げます。

当地区は1958年（昭和33年）群馬県誘致企業第1号として高崎工場での操業開始以来約半世紀にわたり、電子計算機およびその周辺機器から発券機、ATM等を開発、製造してまいりました。1994年（平成6年）に主たる生産を富岡工場に移し、2002年（平成14年）本庄工場へ集約しました。現在はハードウェア製品の開発拠点として、新製品の開発設計と試作をしています。

当地区は1997年（平成9年）にISO14001「環境マネジメントシステム」の認証を取得して以来環境への取り組みを着実に実行してまいりました。2002年度は廃棄物発生量の抑制と再資源化に取り組んだ結果、ゼロエミッションを達成することができました。また、省エネルギー化の推進によりCO₂排出量を大幅に削減することができました。

また2003年度はこれら環境への取り組みを更に進めると同時に当地区の特長であるハードウェア製品の開発拠点であることを生かし、環境に配慮した製品の開発設計に重点を置き活動を推進してまいります。特に近年注目されている製品に含まれる環境影響物質の抑制については、具体的な改善計画を策定し取り組んでいきます。そのためには、鉛フリーはんだの推進、グリーン調達の実施などを重点施策とし着実に実行してまいります。

この環境レポートによりまして、皆様方に当地区の環境への取り組み姿勢と成果の一端をご理解頂くとともに、今後の活動に向けてご意見を頂ければ幸いに存じます。

2 . 高崎地区の事業概要

高崎地区は、情報通信関連機器の開発拠点として製品環境負荷低減と生産活動の環境負荷低減という二つの柱で環境保護に取り組んでいます。

(1) 所在地	群馬県高崎市双葉町 3 番 1 号
(2) 工場設立	昭和 3 3 年 (1 9 5 8 年)
(3) 従業員数	1 , 5 8 7 名 (2 0 0 3 年 1 月 2 1 日 現在)
(4) 敷地面積	5 2 , 7 8 4 m ²
(5) 建築面積	3 1 , 7 4 7 m ²
(6) 用途地域	工業地域
(7) 事業内容	情報通信関連機器 (A T M、プリンター等) の 設計、開発および製造
(8) 関連会社および 協力会社数	2 1 社
(9) その他	第一種電気管理指定工場 公害防止管理者 (大気四種) 設置工場 高圧ガス第二種製造所 騒音 第 4 種区域 振動 第 2 種区域



3 . 高崎地区のこれまでの取り組み

高崎地区は、これまでに沖電気全社の環境活動と連携し、洗浄用フロン・エタン等の全廃に取り組んできましたが、お客様や地域の皆様の信頼をさらに高めるためにISO14001環境マネジメントシステムを1997年11月に認証取得しました。



< 高崎地区の活動 >

- 1992年 洗浄用特定フロン全廃
- 1993年 洗浄用トリクロロエタン全廃
- 1995年 めっき処理施設廃止
- 1997年 ISO14001 認証取得
- 1998年 洗浄用代替フロン全廃
- 2000年 ハロン消火器全廃
- 2001年 サイト環境レポート公開
- 2002年 ゼロエミッション達成

< 世の中の動き >

- 1989年 モントリオール議定書発効(オゾン層保護)
フロン 2000年、エタン 2005年全廃(オゾン会議)
- フロン・エタン 1996年全廃前倒し(締約国会議)
- 1996年 ISO14001 規格発効
- 1997年 京都議定書(地球温暖化)
- 2000年 循環型社会形成推進基本法制定

4 . 高崎地区の環境方針

高崎地区では以下の様な環境方針を策定し、この方針を基に環境活動に取り組んでいます。

[環境理念]

沖電気高崎地区は、沖電気本社の「環境基本方針」に基き、情報社会の発展に寄与するコンピュータシステム、現金自動取引装置、自動発券機、プリンタなどの情報通信関連の商品を開発していく企業活動のあらゆる面において、地球環境および地域環境に関する保全活動を積極的に展開します。

[行動指針]

- 1) 高崎地区環境委員会を設置し、地球環境の保全活動を推進する。
- 2) 企業活動のあらゆる面において、環境に与える影響を的確に捉えて環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスの継続的向上を図るとともに、汚染の予防に努める。
- 3) 環境関連の法律、規制および協定を遵守するとともに、自主的な管理基準や改善計画を設定し、環境負荷の削減に努める。
- 4) 設計・開発段階において、商品の流通、使用、廃棄の各段階における環境影響を評価し、商品の省エネルギー設計、リサイクル化およびグリーン調達などを推進し、環境に配慮した商品開発に努める。
- 5) 施設・生産設備のエネルギーおよび資源効率を運用面、設備面より見直し、電力などの省エネルギー化を推進しCO₂削減に努める。
- 6) 紙屑、廃棄プラスチック、生ゴミなどの廃棄物については、発生源での削減およびリサイクル化の徹底に努める。
- 7) 業務の効率化、情報の電子化を推進し、ペーパーレス化などの省資源化に努める。
- 8) 環境教育や社内広報活動を通じて、高崎地区の全構成員に環境方針の理解と環境情報の周知を徹底し、環境保全に関する意識の向上を図る。
また、取引先に対しては、環境保全活動への理解と協力を求める。

金融ソリューションカンパニー
バイスプレジデント
常務理事 松前 晃庸

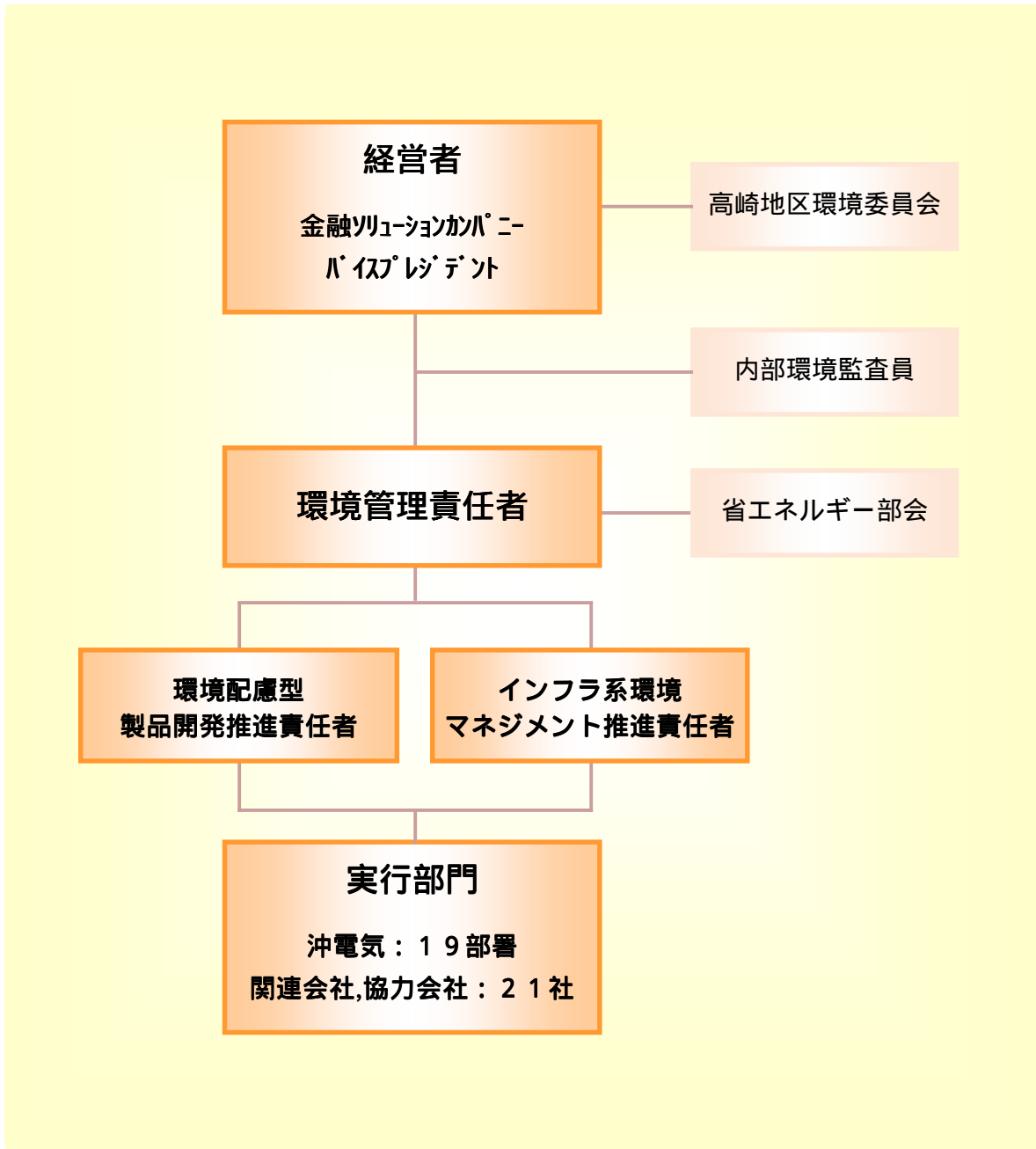
~ この環境方針は、外部からの要求に対して公表します ~

1997年10月 策定

2003年 5月 第7版

5 . 高崎地区環境活動の推進体制

環境保護は高崎地区で働く全員の共通の問題ととらえ沖電気はもとより地区内の全ての関連会社および協力会社がひとつの推進組織で活動しています。



6 . 環境目標の達成状況

沖電気は、環境保護活動計画として「エコ・プラン 2 1」を設定し社外に公表しています。

高崎地区では、これを受け具体的な環境保護活動計画として環境目標を定め活動を進めてきました。2002年度の主な活動結果は次の通りです。

分類	活動項目	環境目標	2002年度 活動実績	評価	関連 ページ
製品環境 負荷低減	IC商品促進	新規設計製品は OKI IC 商品登録基準を満たす	新規設計製品 OKI IC商品登録実施 (4機種)		p.12
	鉛入りはんだ全廃	鉛フリ-はんだの適用率 60%以上	適用率 52%達成	×	-
生産活動 の環境負 荷低減	エネルギー起源 の CO ₂ 排出量 削減	使用電力量を 1,141 万 kwh 未満	使用電力量 1,059 万 kwh		P.9
	工場廃棄物 削減	廃棄物の再資源化率 を 99%以上	廃棄物の再資源化 率 99.4%達成		P.11
	環境影響化 学物質削減	恒温槽で使用してい る冷媒用特定 F ₂ の全 廃 (3台)	全廃達成		-
	省資源化促 進	紙の使用枚数 995 万枚 以下	紙の使用枚数 909 万枚達成		P.10

注 : 目標達成、× : 目標未達



7. 高崎地区の環境活動と成果

7.1 省エネルギー活動

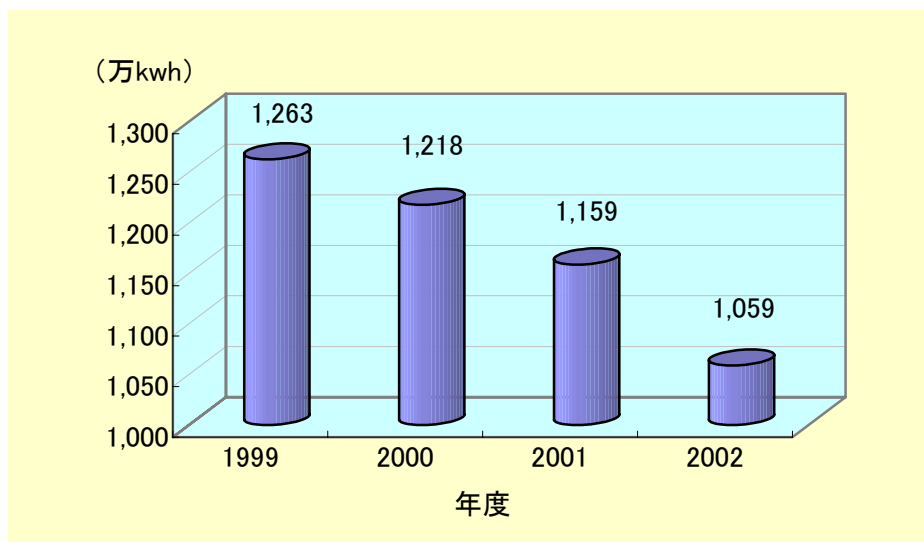
高崎地区では、地球温暖化防止対策のひとつとして「省エネルギー部会」を中心に省電力活動を推進しています。

2002年度は前年度比較で、年間消費電力量を100万KWH削減しました。費用面でも2,218万円の削減効果がありました。

省電力の主な取り組みは次のとおりです。

- ・ 自動販売機の撤去（7台）
- ・ 自動販売機省エネルギータイプへのリプレース（5台）
- ・ フロアー集約による空きスペース化
- ・ 送風機の運転時間短縮

消費電力量の推移



7.2 省資源活動

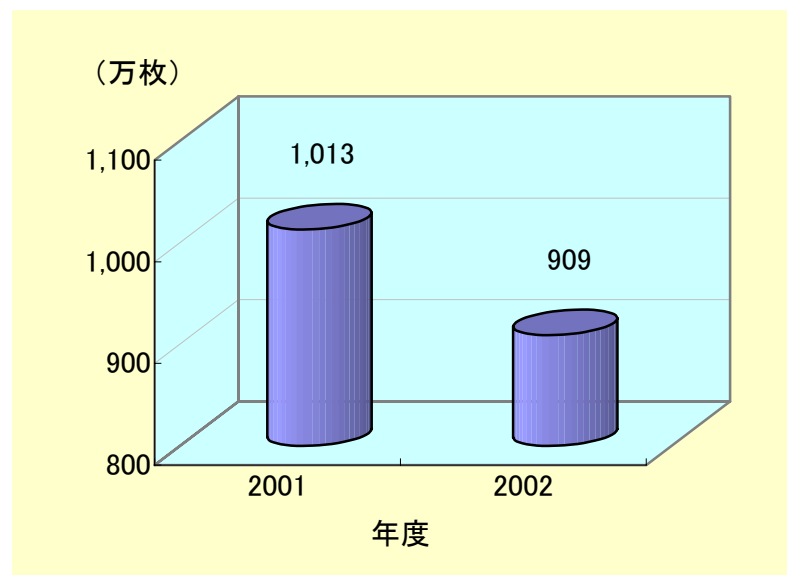
高崎地区では、省資源活動として、居室でのコピー用紙削減、外部へのコピー依頼枚数削減、パソコンプリンターの印刷用紙削減を推進しています。

2002年度は前年度比較で、コピー枚数を104万枚削減（前年度比10.3%削減）しました。

削減の主な取り組みは次のとおりです。

- ・ 両面コピーと縮小コピーの徹底
- ・ 文書の電子化促進
- ・ 裏紙の利用
- ・ 推進責任者によるコピー枚数管理の徹底

コピー枚数の推移



7.3 廃棄物の再資源化活動

A T Mの開発拠点である当地区において、2002年度第3四半期時点までにゼロエミッション（注1）を達成しました。

ゼロエミッション達成に当たり、最終処分量を削減したり再資源化率を向上させる対策を取ると共に、出来る限り再生利用出来る形の分別・廃棄方法を取っています。

（1）ガラス屑の再生利用

今まで最終処分（埋立）していた清涼飲料水の空ビン、ガラス瓶、道路舗装材、建築資材などに再生利用することにより、最終処分量を大幅に削減し、再資源化率の向上を計りました。

（2）紙屑の再生利用

開発拠点である当地区では紙屑の発生量が多く、徹底した分別・廃棄による再資源化に取り組んで来ました。その中でも、紙の原料として再生利用する割合を高め、2002年度の紙屑の再生利用率は紙屑全体の69%となり、2001年度に比べ18%向上しました。

（3）廃プラスチックの再生利用

廃プラスチックは側溝蓋や角材等に再生し、又ビニール系の廃プラスチックはビニール類と梱包・緩衝材類とに分けて収集し、ビニール類は標識杭、ゴミ袋等に、梱包・緩衝材類は固形燃料等に再生利用できるよう、分別・廃棄をさらに徹底しました。

その結果、2002年度の廃プラスチックの再生利用率は廃プラスチック全体の30%となり、2001年度に比べ8%向上しました。

注1）ゼロエミッション：沖電気グループでは、一般廃棄物及び産業廃棄物の再資源化率が99%以上と定義しています。



フロア毎に設置された分別収集箱

7.4 環境配慮型製品の開発

沖電気では、お客様に環境に優しい製品を提供するため「OKI エコ商品社内認定制度」を運用しています。

この制度は、沖電気独自の環境基準を満たした製品を「OKI エコ商品」として社内認定し、お客様に製品の環境情報を提供する制度です。

高崎地区においてもこの認定基準をクリアすべく積極的な活動を行っています。2002年度は4機種が社内認定基準をクリアしたため「OKI エコ商品」として認定されました。

2002年度エコ商品認定機種

分 類	機 種 名
情報端末機器	オープン出納機 CM21
	郵便局用窓口端末機（V型）CTM-V
パーソナルコンピュータ	if Station GH2 シリーズ
	if Station SS4 シリーズ



8 . 緊急時の訓練

緊急時を想定した以下のような訓練を担当部署全員で年1回実施しています。

薬品タンクの流出拡散防止の訓練

廃油槽油流出防止の訓練

重油タンク重油流出拡散防止の訓練

ボイラー灌水タンク流出拡散防止の訓練

の訓練状況

地震により廃油貯槽から廃油が流出し、雨水マンホールに流入する場合を想定した訓練



9 . 環境法規制

9 . 1 ばい煙管理の状況

当地区で保有するばい煙発生施設は、重油ボイラー 3 基、冷温水発生機 5 基があり、1997 年度よりそれぞれ国の排出基準より厳しい自主管理値を定め運用管理を行っています。1997 年度以来、A 重油の低硫黄化、大型ボイラーの撤去、小型ガスボイラーの導入など環境影響を低減する施策を行なってまいりました。

2002 年度における排ガス測定結果のうち最大値を下表に示します。

測定項目	単 位	国の排出基準	自主管理値	測定値(最大値)
硫黄酸化物	m ³ N/h N	7.6 以下	5.6 以下	0.02
窒素酸化物	c m ³ /m ³ N	180 以下	144 以下	130
ばいじん	g / m ³ N	0.3 以下	0.24 以下	0.04

9 . 2 水質汚染防止の状況

地区から下水道に排出する水については、下水道流入口にて月一回の頻度で下表の分析項目について、測定し良好の状態を維持しています。

その他の排水関連設備については、各設備排水出口において、維持管理を行っています。

分析項目	単 位	高崎市下水道基準	自主管理値	測定値(最大値)
PH	—	5 ~ 9	5.2 ~ 8.5	6.7 ~ 8.3
BOD	mg/l	600 以下	300 以下	160
リン	mg/l	32 以下	16 以下	4.7
窒素	mg/l	240 以下	120 以下	96
ヨウ素消費量	mg/l	220 以下	110 以下	16

9 . 3 地下水汚染防止

過去にめっき施設、塩素系溶剤洗浄施設があった経緯から、地区内周囲 7 カ所に地下水監視用井戸を設置し、下表の分析項目について測定していますが、例年国の環境基準以下の数値となっています。

分析項目	単 位	国の環境基準	1998	1999	2000	2001	2002
カドミウム	mg/l	0.01 以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
シアン化合物	mg/l	未検出	未検出	未検出	未検出	未検出	未検出
六価クロム	mg/l	0.05 以下	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満
トリクロロエチレン	mg/l	0.03 以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.003
1,1,1-トリクロロエタン	mg/l	1.00 以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満

9.4 騒音・振動の遵法状況

特定施設に限らず、周辺地域を意識した場所6カ所を選定し、年一回敷地境界にて騒音・振動測定を実施しています。

[騒 音]

時間区分 \ 項 目	4 種区域規制値	自主管理値	測定値(最大値)
昼 間 8:00 ~ 18:00	70dB 以下	68dB 以下	64dB
朝(6:00 ~ 8:00) 夕(18:00 ~ 21:00)	65dB 以下	63dB 以下	57dB
夜 間 21:00 ~ 6:00	55dB 以下	54dB 以下	54dB

[振 動]

時間区分 \ 項 目	2 種区域規制値	自主管理値	測定値(最大値)
昼 間 8:00 ~ 18:00	70dB 以下	49dB 以下	38dB
夜 間 21:00 ~ 6:00	65dB 以下	45dB 以下	27dB

10. 環境会計

環境会計とは、環境保全に関する投資や費用などの支出とそれらによる効果を定量的に把握する仕組みです。

高崎地区では、沖電気全体の環境会計算出基準に基づいて算出しています。

2002年度集計結果を以下に示します。

環境保全コストは、投資額62万円、費用額15,718万円となりました。

環境保全効果は、廃棄物最終処分量がゼロエミッション達成により前年度比60%減少しました。またCO2排出量も前年度比6.4%減少しました。

環境保全対策に伴う経済効果の内、実質的效果額は2,742万円でした。

環境保全コスト

投資額：62万円（前年度：973万円）

費用額：15,718万円（前年度：18,957万円）

（単位：万円）

環境保全効果	主な取組内容	費用額
事業エリア内費用	環境関連設備維持管理費、原価償却費等	3,807
上・下流費用	プリンター消耗品リサイクル費用等	213
管理活動費用	環境マネジメント運用費用等	9,940
研究開発費用	環境負荷低減の研究開発費用等	1,700
環境損傷対応費用	汚染負荷量賦課金	58

環境保全対策に係わる効果

環境保全効果

環境負荷指標	主な取組内容	負荷(総量)	前年度との差
CO2排出量(t-CO2)	エネルギー使用量削減	5,609	377減少
廃棄物最終処分量(t)	廃棄物削減	8	12減少

環境保全対策に伴う実質的效果額：2,742万円

（単位：万円）

実質的效果分類	主な取組内容	効果額
費用削減効果	エネルギー使用量削減、廃棄物処理費用削減	2,570
実収入効果	有価物の売却等	172

11. 社会貢献活動

エコプリ「環境フェア2002」へ出典

高崎市が「環境の日」にちなんで開催した「環境フェア2002」に(株)沖情報システムズからエコプリを出展しました。環境フェアには地元企業7社が出典したほか、市民団体8団体がリサイクルバザーを開き、にぎやかなイベントでした。エコプリは「リサーマル用紙」を使用し、印刷された文字を消去して、再び新しい内容を印刷することができるプリンタです。実用レベルで約500回の再印刷が可能のため、用紙の使用量が「ほぼゼロ」となります。また、トナーやインクなどの消耗品が必要ないため、これらの廃棄物もほとんど発生しません。



高崎市環境フェアに出展したエコプリ



エコプリ外観

森林ボランティアへ参加

2002年11月16日(土)～17日(日)の2日間、群馬県上野村で枝打ちの森林ボランティアを行いました。高崎地区からは8名が参加し汗を流しました。また夕食後、森林教室を行い、地元の林業家の方に森林に関わる歴史や林業などのお話をさせていただきあらためて森林保護の重要性を認識することができました。



参加者全員で

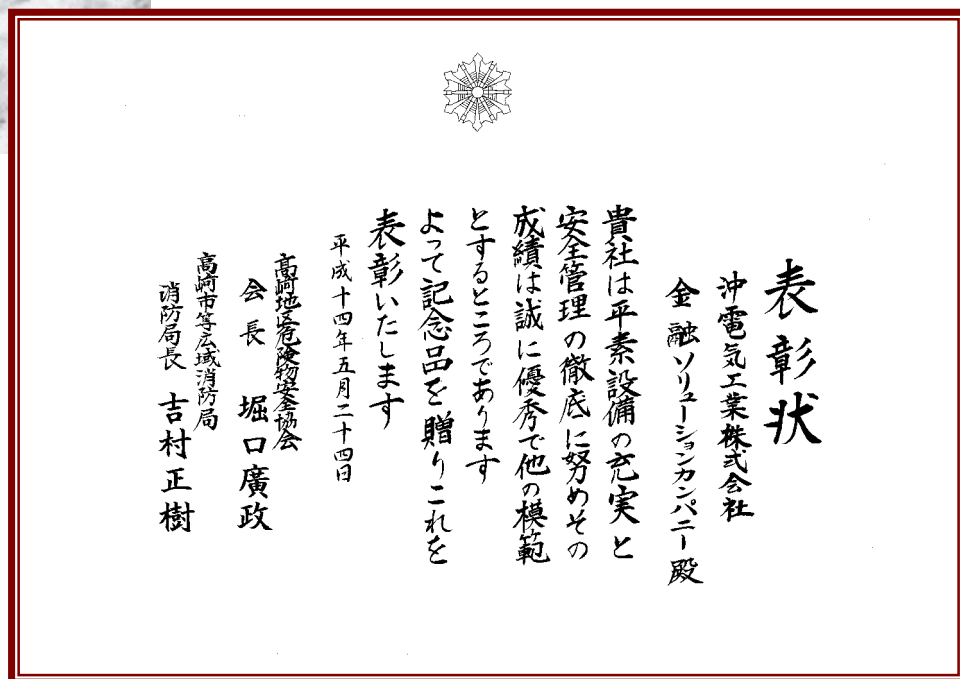


枝打ち作業の様子

12. 社外表彰

高崎地区では、環境保護の取り組みに対して以下の賞をいただきました。

年 月	受賞名(主催)	受賞の理由
2002年5月	優良事業所表彰 (高崎地区危険物安全協会)	危険物の取扱いに関して設備の充実と安全管理の徹底に努めた



< お問い合わせ先 >

沖電気工業株式会社 金融ソリューションカンパニー
システム機器本部 設計審査部

〒370 - 8585

群馬県高崎市双葉町3番1号

TEL : 027 - 325 - 1111 (代)

FAX : 027 - 324 - 2184